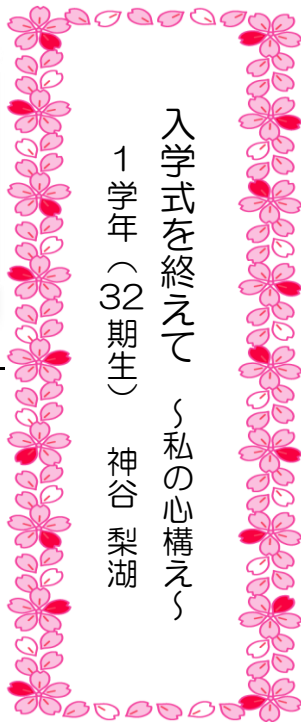




トヨタ看護専門学校だより

発行
トヨタ自動車株式会社
トヨタ看護専門学校
発行人 辻 秀樹
編集人 鎌田 浩也



入学式を終えて
私の心構え

1学年(32期生) 神谷 梨湖



四月四日、看護師になる第一歩を踏む為、トヨタ看護専門学校に入学しました。これから始まる新しい生活に、期待と不安を抱きながら学校へと向かいます。歩いている途中、コツコツと鳴るヒールの音と、見慣れないスーツ姿の自分に、少し大人になった

ような気持ちになりました。

入学式では、多くの先輩方や先生方、保護者の方々から私たちに入学を祝ってくださいました。大勢の方がいらっしやる中で、名前を呼ばれて返事をするのでさえ緊張してしまいました。しかし、私はとても晴れやかな気持ちでした。看護師になりたいという夢に近づいたことへの喜び、そして、自分の夢を応援して

くれる家族、友人、今までお世話になってきた先生方や、これからご指導してください先生方への感謝の気持ちに胸にこみ上げてきたからです。

特に、両親には一番「ありがとう」と伝えたいです。看護学校に通って看護師になる為の勉強ができるのは、決して当たり前なことではなく、全て両親のおかげです。これから三年間、常に感謝の気持ちを持って何事も頑張ろうと誓いました。

入学してから、早一か月が過ぎようとしています。時間の流れを速く感じ、きっとこ

れからの三年間もあつという間に過ぎていくのだろうと思っています。



学校生活にもだいぶ慣れ、看護学生の忙しさを感じています。

看護師になるための学びはこれまでの学習内容とは全く違い、難しいと感じることも多く、分からない所はクラスメイトや先生に質問をして、理解するようにしています。国家試験はまだまだ

先ですが、一学年の今から知識を積み重ねていくことが大切だと思つので、予習と復習を怠らずに続けていきます。

これから三年間、技術や知識はもちろん、患者様一人一人の幸せを感じ取ることができるような感性、そして、コミュニケーション力も身につけていきたいと考えています。三十三人の仲間とともに支え合いながら、全員で立派な看護師を目指します。





「ラグナシア」での
教科外活動に参加して
3学年（30期生） 柴田 碧



四月二十七日、先生方と学生全員でラグナシアに行きました。一年に一度、全学年と教員が交流を深め、相互に深く関われる機会です。今回は、私たちにとって学生生活最後の教科外活動ということでもあり、とても楽しみにしていました。

その日は事前に決めた十三名のグループで行動します。ラグナシアでは、アトラクションに乗ったり、ボールで遊んだり、メンバー全員で、一緒に楽しむことが出来ました。アトラクションの待ち時間や、ランチの時間には、それぞれが抱える悩みや不安を聞き合い、話し合うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。



そして、質問の多くは私たち三年生に向けられ、改めて最高学年という立場を実感しました。それぞれの悩みや不安を聞く中で、私もその当時のことを思い出しました。入学したばかりで、分からないことが多く、不安だった私たちに、先輩方がアドバイスをして下さいました。今回は、自分たちが後輩の不安な気持ちを和らげることが出来る機会だと思い、実体

験や反省、後から考えればこうするべきだった点などを伝え、相談に乗ることでその時間を大切に過ごすことが出来ました。



今回の交流会では、たくさんさんの思い出を作ることが出来ました。そして、看護師になる上で重要なコミュニケーション力は、

患者様とのコミュニケーションだけでなく、今日のように同期や先輩、後輩を大切にし、仕事の悩みや不安を語り合う事も大切だと思いました。そのため、普段の生活から様々な人とコミュニケーションをとり、看護師を目指す者として、その能力を上げる事ができるよう、努力していきたいと思えます。そして、患者様の不安や悩みを聞き、患者様を笑顔にすることが出来るような看護師になりたいと思えます。





ボランティア活動に触れて 1学年(32期生) 林 莉穂



「ボランティアは奥深く、幅広い。」受講後、私から思ったことです。

入学して間もない四月十日、「今日からあなたもボランティア」というテーマで、豊田市社会福祉協議会の方に来校いただきました。題名を聞き最初はボランティア

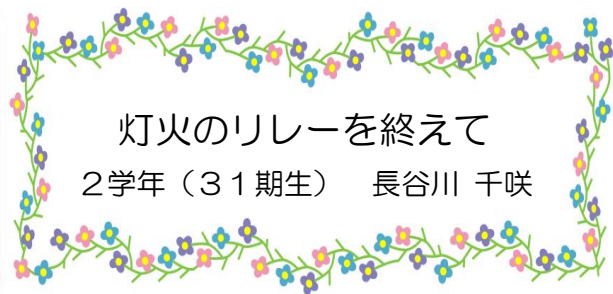
に対する知識を深める講義かなと思い、「社会福祉協議会」のイメージと「ボランティア活動」が結びつかず少し不思議でした。そう考えたのも、私が「福祉」と「ボランティア」は全くの別物であり、関係のないものだと考えていたからです。私の中のイメージは「福祉」はお年寄りの方々に行く医療やデイサービスの事、そして、「ボランティア」は催し物などで、見返りを求めずにお手伝いする活動を指していると思っていました。しかし、講義が始まってすぐにその不思議さが消えました。

ある、とても関わりの深いものでした。講義の中で、講師から「福祉」の言葉の意味は？と尋ねられ、私は答えることができませんでした。なんとなく、「福祉」といえば高齢者というイメージだけがありがち、「福祉」という言葉の意味を考えたことがありませんでした。「福祉」を構成する「福」と「祉」の漢字は、どちらも「しあわせ」という意味を持つと教わり、福祉は「特定の人だけでなく、日頃の暮らしの幸せ」を願うものを知り、とても感銘を受けました。そして、自分のこれまでの福祉に対する認識の浅はかさを、恥じました。

そして次に、ボランティアに対するイメージをグループで話し合いました。私は、ボランティアとは、見返りを求めない無償の支援だと思っていました。しかし、グループ討議で、提供する側が笑顔で接することで、支えを必要としている方の辛い気持ちを少しでも和らげることや、「物」の支援をすることもボランティアであることを学びました。さらに講師の方より、ボランティアは物品、金銭、技術などの支援、そして地域、学校、職場、海外と様々な場所での活動が可能であると教わりました。また、私たちの日々の「思いやり」のこもった行動全てがボランティアであるということも学びました。

ボランティアの精神は看護学を学ぶ上で通ずるものがあると考えます。見返りを求めることなく、ただ純粹に相手のために思い全身全霊をもって尽くす、という点は両者に共通します。そのため私は、これから看護学を学んでいく上で、ボランティアの精神を心に刻み、今相手が何を必要としているか、どのような助けを求めているかを瞬時に判断ができるような看護師になれるよう努力したいです。





灯火のリレーを終えて

2学年（31期生） 長谷川 千咲



四月二十日、「灯火のリレー」が行われました。体育館の照明が全て消され、荘厳な雰囲気の中、中央に置かれたナイチンゲール像に灯火が点灯されました。三年生代表の先輩がナイチンゲール像から灯火を受け

取り、放射状に並んだ私達二年生の先頭にその火が渡り、後へ、また後へとリレーを行います。全員に灯火が受け渡った時、一人一人の看護に対する想いがそこに感じているようでとても感動しました。



トヨタ看護専門学校に入学し、一年が過ぎました。初めて聞く専門用語、学ぶ科目の多さ、そして習得する技術の多さに戸惑いながらも、日々、乗り越えてきました。二月

からは基礎看護学Ⅰ期実習が始まり、初めて患者様を受け持たせていただきました。個別性のある援助を考えることが出来ず、たくさんの方の指導を受け、グループメンバーとは情報交換がうまくいかず、解決方法が出るまで話し合いました。実習の大変さや心が折れ、私は看護師に向いていないのではないかと悩みました。しかし患者様の笑顔に助けられ、五日間の実習を終えることができました。

二年生になり、看護過程の展開が始まりました。これまでに学習した知識を活用し、個別性を考えたアセスメントを行います。看護に必要な情報を収集し、その領域に沿ったアセスメントの

難しさを感じます。しかし、分かりやすく指導してくださる先生方や、相談し、支え合えるクラスメイトとともに頑張ろうと思えます。

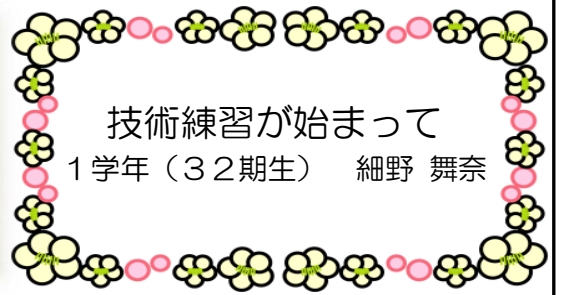


七月からは基礎看護学Ⅱ期実習が始まります。患者様を十三領域からアセスメントし、個別性を考えた援助を計画し、実践していきます。辛い事も多く、心が折れそうになるかもしれませんが、灯火のリレーで看護師になりたいと

いう気持ちを再確認できたので、どんな困難でも乗り越えていきたいと思えます。そして、同じ目標を持つ仲間とともに助け合い、励まし合って頑張っていきたいと思えます。

先輩方から繋がっていただいた灯火を絶やすことなく、来年には後輩たちへ必ず受け継ぐことが出来るよう日々成長していきたいです。





技術練習が始まって
1学年（32期生） 細野 舞奈



入学して三か月が
経ちました。学校生活
にも徐々に慣れ、技術
練習も始まっています。
私の通っていた高
校には看護科がなく、
専門的な勉強ができ
ていないため、技術練
習に対して、不安な気
持ちと、看護師に近づ
けるようで楽しみな
気持ちで臨みました。

初めての技術練習
であるベットメイキ
ングのデモンストレ
ーションでは、先生の
無駄のない動作、正確
に折り込まれて行く
シーツ、無理のない姿
勢、その一つ一つを自
分も習得していける
よう、最大限の努力が
必要だと、実感しまし
た。そのためには練習
あるのみです。朝、昼
、夕と空いた時間に練
習を重ね、意識せずと
もその動作ができる
よう体に叩き込んで
いきます。



しかし、実際にやっ
てみると、思うように
できません。無理に腰
を曲げてしまい、その
せいで膝や腰が痛く
なりました。体に負担
がかかっていること
を実感し、ボディメカ
ニクスの重要性を肌
で感じました。一人で
試行錯誤をしていま
したが、なかなか思う
ようにはいきません。
友達同士で意見を言
い合い、悪い点や良い
点を指摘しあいまし
た。頭ではどうすれば
いいのかを理解して
いても体に反映させ
ることができません。
そのため、同じ看護
学生である姉にも家
で教えてもらいまし
た。角のあるクッション
をベッドに、ハンカ
チをシーツに見立て
て練習をしました。コ
ツを聞き、次の日には

学校で実施する、それ
の繰り返しです。

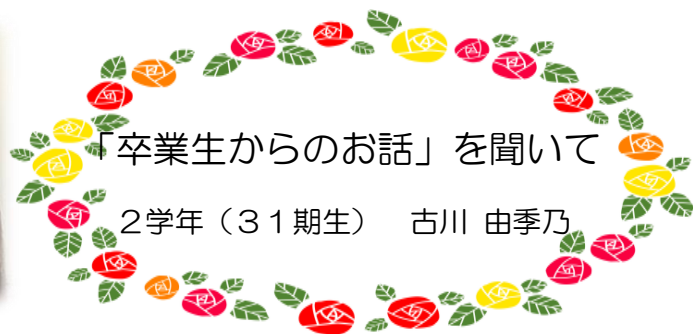


そして、こんな私達
の心配をしてか、自主
練習にもかかわらず、
先生方が見に来てく
ださいました。手の
使い方やシーツの抑
え方など実際に見せ
ていただき、そのう
えで私たちがちゃんと
できているかを見て
いただきました。繰り
返して行くうちに、腰
が痛くなることもな

くなりました。とても
感謝しています。

これからもたくさ
んの技術を学び、練習
を繰り返していきま
す。一歩ずつではあり
ますが、確実に看護師
という夢へ近づけて
いるようでうれしく
思います。この気持ち
を大切にしていっ
つの技術向上のため、
クラスメイトと切磋
琢磨しながら、そして
周りの方々のお力添
えをいただきながら、
努力していきたいで
す。





「卒業生からのお話」を聞いて

2学年（31期生） 古川 由季乃



トヨタ看護専門学
校に入学し、四月で二
年生になりました。実
習に向け、事前学習や
技術の練習、テスト勉
強等で毎日がとても
忙しく、充実した日々
を送っています。まだ
一年生が入学し、後輩

ができたことで、改め
て二年生になったこ
とを自覚することが
できています。それと
同時に内容の濃い日
々があつという間に
過ぎていくのを感じ
ながら、来年、私が三
年生の先輩方のような
立派な存在になれ
るのかと思うと不安
でいっぱいです。

このような生活を
送っている中で、六月
二十二日、トヨタ記念
病院に入職された先
輩から貴重なお話を
聞く機会がありました
た。先輩のお話の中で
私が一番印象に残っ
たことは、「課題に追
われ、目的も忘れ、何
でやっているのか分
からなく、やらされて
いると感じた時には、
自分が看護師になり
たいと思った最初の
きっかけを思い出す

ことが大切で、その時
の気持ちに戻ること
で、理想の看護師像を
思い出すことができ
る。」というお話でし
た。この話を聞いて改
めて私が看護師にな
りたいと思った初心
を思い起こすことが
できました。

それは、中学校三年
生の時に父が入院し
たことです。この時の
看護師さんの対応や
コミュニケーション
能力、また看護師とい
う命を救う職業の素
晴らしさに胸を撃た
れ、絶対に看護師にな
りたいと思いました。
看護学校に入学した
頃は、この気持ちが私
の頑張りの源となっ
ていました。しかし、
新しい学びや技術が
増え、習得しようとする
その忙しさに追わ
れるうち、大切な初心

を忘れてしまいました
た。今回、先輩のお話
を通して私自身がど
うして看護師になり
たいと思ったのか、そ
の理由と、理想とする
看護師について改め
て思い出し、考えるこ
とができました。初心
を忘れず、自分が理想
とする看護師になる
ため、これからも努力
し、頑張っていきたい
と思えました。

そして、看護師にな
るための一歩として
七月から始まる実習
で未熟ながらも患者
さんの気持ちに寄り
添えるように努力し
ていきたいです。



3年生になって

3学年（30期生） 廣野 葵



入学して二回目の
春を迎えました。

思い返せば、入学式
の日は机に乗ってい
た教科書の数に驚き、
授業についていくこ
とができるのか不安
になったことを覚え
ています。しかし授業
が始まると、分からな
い言葉は多かったも
の、先生方が丁寧に



説明をして下さり、徐々に分かる言葉が増え、その不安は消えていきました。自分の中に看護師になるためのたくさんの知識や技術が身に付いていくようで毎日がとても楽しいものになりました。



そんな私が看護師を目指したのは、小学一年生の頃にトヨタ記念病院に入院をしたことがきっかけです。不安だった私に優しく声をかけてくれた看護師さんに憧れ、私もこの病院で看護師として働きたいと思い始めました。長年

思い続けた夢を叶えるための毎日は、私にとって本当に充実していると感じます。

一年生の冬になると、領域実習が始まりました。ほぼ毎日実習で、たくさんの患者様と関わらせて頂いています。どの患者様も「ありがとう」「頑張ってるね」と笑顔で優しく声をかけて下さり、その言葉と笑顔で私自身がたくさんの元気をもらっています。その関わりの中でも私は、成人看護学実習で出会った患者様から言われた「初心を忘れずにな。」という言葉を大切にしていきます。そのため、患者様が望むものを考えること、毎日の学校生活や実習を楽しむことなど、入学当初の気持ちを大切に、日々

を過ごしています。

この領域実習が全て終わると看護師国家試験です。国家試験合格は、看護師になるという私の夢のゴールであり、看護師として働くという新たなスタートでもあります。しかし、未だ国家試験に向けた模試の点数は合格に程遠く、自分自身の努力不足が表れています。これからは、今まで以上に計画的に、しっかりと学習を進め、国家試験本番に悔しい思いをすることが無いようにしていきたいと思っています。

残りの学生生活を送る上で、看護師という夢に向け、まだまだ辛いことがあるかもしれないかもしれません。しかし、私らしく、初心を忘れず毎日を楽しく、実習

や勉強に取り組み、国家試験の合格を目指したいと思います。

新任職員挨拶



高柳 先生

四月より実習指導教員として赴任いたしました。二度の育児休業を挟みながら、名古屋記念病院救命救急棟、ナグモクリニック、愛知医科大学病院救急外来で勤務してきました。様々な病

態や生活環境、異なった価値観の患者様と関わる中で、常に目の前の患者様にとって今、一番必要なことは何なのかを考えながら看護を行ってきました。

今回、実習指導教員として、学生指導に携わることは初めてではありませんが、これまでの経験を活かし、看護について学び、考えられるよう、関わっていきたいです。学校生活は大変なことも楽しいことも、色々あるかと思いますが、今しかできない経験を大切にし、看護の専門性や人と関わること、すばらしさを伝えながら、一緒に成長していきたいと思います。よろしくお願ひします。



